

## 「日本の直接投資と ソフトパワーが大切…」

## トロント 川上公一総領事

「このたびカナダとトロントに来たのは初めて。カナダを発見している最中です」

4月23日着任した川上公一（かわかみ・こういち）総領事は、もの静かな口調でこう語る。

新任地の印象は？

「トロントで行き交う人々を見ると、あたかもニューヨークやジュネーブにある国連のビルにいるような感じがします。多様な民族が共に平和に暮らしている。素晴らしい所ですね。カナダとトロントの第一印象はたいへんポジティブです」



前職は政策研究大学院大学の教授。何を教えていたのだろうか。

「この大学は東京の六本木にある国立大学で、学生は240人ほど。半分以上が日本人で、地方公共団体の公務員で修士課程を学ぶ人たちです。あとの半分は東南アジア、中国、中央アジアなどの途上国の公務員です。私は外務省から派遣され外国人学生に英語で日本の東南アジア外交について教えていました」

途上国からの留学生たちはこれからの自国の国づくりに日本の経験を参考にしようと熱心に勉強しており、川上氏はその指導にあたっていた。

このたび、外務省辞令によりトロント総領事に。ここで抱負をうかがってみた。

「まず、在留邦人の保護。そして、日本の進出企業の利益の確保。さらに日本とオンタリオ州のあらゆる意味での交流の増進。これらを中心に心がけて任務を行っていきたい。その中で、日本とオンタリオの関係では、日系カナダ人の皆さんがたいへん大きな役割を果たされているものと確信しています」

トロントに着任してまだ日が浅いが、すでに日系社会の指導的立場にある人たち数人と会見している。そして、できるだけ多くの人となるべく早く会うよう努力したいと語る。

「前任者からの引き継ぎで、ROM(ロイヤルオンタリオ博物館)の高円宮ギャラリーをさらに発展させること。それに、11月のトロントとオタワでの能公演が成功裏に開催できるよう努力したい。日本文化の素晴らしい要素をカナダ人にぜひ発見してもらいたいと考えます」

在留邦人、日系人、カナダ人にどのような姿勢で臨むおつもりですか。

「カナダには日本の多くの企業が直接投資をしています。これがカナダの雇用に貢献し、カナダの輸出につながる。また、日本ならではの技術をカナダ人が利用できるというメリットがあります。お互いが仲良くする重要な素地が生まれる。これからも直接投資を進めていけば、関係はもっと緊密になると思う」

さらに、ソフトパワーも大切だという。

「ソフトパワーとは、いうなれば国の魅力ですね。日本の魅力を示してカナダ人に日本を好きになってもらう、これがソフトパワー。たとえばアメリカのブルージーンズはアメリカのソフトパワーです。カナダでは、たとえば高円宮妃殿下をはじめとする日本の要人の方々の来訪、能公演、日本人音楽家のコンサートなどが日本の良さを披露するソフトパワーの例だと思えます。在留邦人、日系人コミュニティーが魅力的であれば、それも日本のソフトパワーになるわけです」

川上総領事は1950年(昭和25年)12月、石川県金沢市生まれ。55歳。76年東京大学法学部卒業後、外務省に入省。77年在フランス大使館外交官補となり在外上級研修員としてグルノーブル大学と国立行政学院で学ぶ。

今、世界のマスコミで話題にのぼっているフランスのドビルパン首相、次期大統領候補のロワイヤル女史は川上総領事の同級生だった。

79年から86年まで外務省本省勤務。86年在フランス大使館一等書記官、89年フランス政府から国家功労勲章オフィシエ章を授与される。89年～95年まで再び外務省本省。95年在ミャンマー大使館参事官、98年在フランス大使館参事官兼広報文化センター所長(2000年から公使)、2001年在マレーシア大使館公使。03年から政策研究大学院大学教授(外交政策)として今年3月まで勤務。

「今まで海外駐在はフランスと東南アジアの国でしたが、今回カナダに来て、新しい意欲がわいてきたところです」

ここで、外交官生活で忘れ得ぬ思い出があったら、お話ししていただけますか？

「1990年代半ば、ミャンマーで参事官をしていたのですが、この国は軍事政権下でいくつもの反乱軍が戦闘や停戦を繰り返していました。反乱軍支配地域では麻薬の原料になるケシが広く栽培されていました。日本が資金を出して、国連麻薬統制計画が麻薬の代わりに野菜栽培を推進するプロジェクトを実施していました。政府軍と停戦している反乱軍の支配地域に国連の四輪駆動車に乗って行ったのですが、途中、道路が泥沼で、ウインチで引っ張ったり、全員車から降りて後ろから押したりしても1時間に30メートルしか前進できないことも。そんな苦勞をして反乱軍のチェックポイントまで到達、そこから反乱軍の司令部に。あたりは一面、ケシが栽培されていました。村人にケシ栽培で得る収入を尋ねると生産者価格はものすごく低い。我々は野菜栽培でもケシと同様の収入が得られることを証明するためにこのプロジェクトを実施していたのです。連絡手段がないため大使館に帰還するまで館員たちは私が生きていいのか死んでいるのか分からず、気

をもんでいたそうです」

家族は美芽子(みめこ)夫人と、東京でITソリューションの会社に勤務の長男(28歳)。趣味は車の運転、写真、それに読書。安部公房の『燃え尽きた地図』は愛読書。

座右の銘をお聞きすると、「チームワーク」という言葉が返ってきた。「スタンドプレーではなく、チームワークが大切」と強調している。

2006年5月12日 日加タイムス紙